

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

足湯で分かつた税金の大切さ

熊本県立玉名高等学校附属中学校

三年 小山 にこり

私が住んでいる玉名市には、たくさんの温泉施設がある。あちこちから、白い湯気と温泉特有の香りが広がっている。私はそんな街の景色が大好きだ。寒い季節になると、私は「しらさぎの足湯」について足を運んでしまう。そこはいつでも温かいお湯がでていてとても気持ちいい。私は陸上部に所属している。練習で疲れた足や心を癒してくれるの有助かっている。私はもちろん、部員も大好きな場所だ。あるとき、足をつけてふと周りを見ると、草木はきれいに整えられ、トイレもピカピカ、足湯には葉っぱが一つも入っていない。前に来たときを振り返っても同じ状態だった。

「えつ。」

私はそのことに気づき、思わず声が出てしまった。たくさんの人が利用しているにも関わらず、こんなきれいな状態が維持されていることに驚いたのだ。そして、足湯がどうやつて維持されているのか不思議に思った。

家に帰って調べてみると、シルバー人材センターと地元住民・ボランティアなどの方々が、足湯やトイレ、周りの清掃を行っていると書かれていた。たくさんの人が協力して、足湯が気持ちのいい場所になるように努力していることを知り、感動した。感謝の気持ちを持ち、きれいに利用することを心がけていきたい。

足湯のお湯はずつと流れしており、誰でも無料で楽しむことができる。では、維持する費用はどこから出ているのか。調べていくと、玉名市の予算に商工費というものがあった。これは、玉名市のイベントや特産・物産品の開発などに使われているそうだ。足湯は観光組織体制の強化に含まれていて、全ての事業費を一般財源で支払われていた。一般財源とは、使い道が特定されずに自由に使えるお金、つまり、私たちが払っている「税金」だ。「税金」と聞くと、必ず支払わなければいけないものという堅苦しいものを感じる。今まで、「税金が高くなつた」などのニュースでマイナスなイメージを持つていた。しかし、私が利用する足湯を通して、払った税金がどんなことに使われているのか知ることができた。また、自分が払った税金が、きちんと周りの人のためになつていてうれしく感じた。

「知らない誰かに助けられ、知らない誰かを助けている。」

これは租税教室で心に残った言葉だ。私はこのことを、地元玉名市の足湯で深く実感した。